

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2004. 3. 14 No.11

北海道ボランティア・レンジャー協議会

野幌の森を考える

待ちに待った春がすぐそこにきています。冬の野幌の森も私たちに楽しみを与えてくれますが、やはり、可憐な野草の花や葉が繁る木々の姿に感動します。その季節の到来に先立ち私たちは、野幌の森についてあらためて考えてみましょう。

野幌の森は1968年(昭和43年)に北海道開道百年を記念して道立自然公園に指定されました。日本ではめずらしい大都市近郊の平地林で、ウィーンの森やフランクフルトの森と肩を並べるくらい有名な都市近郊の森です。

面積は2040㏍で温帯と亜寒帯の植物がまじりあって生えていて、その種類はおよそ500種ほどです。また、野鳥や小動物も100種をこえる数が確認されています。このような豊かな自然は世界的にも貴重な場所と言えるでしょう。

このような場所に気軽に散策できたり、動植物の観察ができることが、ともすると当然と思ってしまう知らぬ間に森への負担を多くしている現実もあります。例えば、森を訪れる人を受け入れる限界を超えてしまっているとの指摘をする学者もいます。また、野草の盗掘などで、特にラン科の植物が減っているとの指摘、平気で樹木の枝を折る人など、森の中にはいる最低のモラルを持たないがため森にダメージを与えています。

先日、フォーラム野幌の森という集会で、北海学園大学の佐藤謙教授の話しを聞く機会がありました。先生のレポートの一部を引用します。

野幌の森林は、低地にありなが、自然の姿(自然植生・二次植生、生物の多様性)が比較的良好に残されてきた。それは、官林から始まった国有林であったからである。ほとんど人為植生と二次植生に変えられた石狩低地帯(低地)において、この森は、低地にありながら本州の里山ほど自然が劣化しておらず、非常に希な「自然豊かな島」として残されている。

しかしながら、この森は、国有林の管理計画(平成5年)によると、木材生産3㏍、自然維持林26㏍、自然空間利用林(自然休養林)1566㏍と区分されており、道立自然公園「野幌森林公園」として保護とともに各種の利用が続けられている。その結果、全体的にはここは「市民の憩いの場」として利用中心とされ、その過多が危惧されている状況にある。

しかし、ここは、都市公園のような利用の優先ではなく、最も容易に生物の多様性を維持できる国有林、しかも自然公園であることから、それを強く再認識し、自然の荒廃をまねかない、ソフトな利用の姿を慎重に考えねばならない場所である。低地の自然を守るには、かなりの困難が伴うことが多いが、野幌の森の場合には、本州の里山に比較して、考え方次第で、容易に、生物多様性国家戦略の方針に近づくことができる。

野幌の森での観察会も、森の環境保全を考えながら、謙虚に森の恵みに感謝する、そんな形を模索していかなければならないでしょう。春を前に野幌の森を訪れる皆さんとともに考え、実践していきましょう。

ゴジュウカラ

2月の寒さの厳しい時期、森の奥から「フィフィフィ…」と大きな声が聞こえます。3月に入るとさらに力強さを感じる声に聞こえます。この声の主はゴジュウカラです。他の野鳥に先立って囀りを始めています。

ゴジュウカラはスズメ目ゴジュウカラ科ですが、日本では3亜種に分けられています。本州や四国・九州北部はゴジュウカラ、北海道にはシロハラゴジュウカラ、九州南部にはキュウシュウゴジュウカラが生息しています。私たちが見るのはシロハラゴジュウカラで、背中の色が薄く、腹面が全体的に白いのが特徴です。ゴジュウカラの言われは江戸時代の頃からシジュウカラに似ているが少し違うという意味からきているとも言われています。樹幹を下向きに下ることができる唯一の鳥なので「さかほこ」とも呼ばれます。

ゴジュウカラはアガゲラなどキツツキ類の古巣を利用して繁殖しますが、巣穴の入り口のサイズが大きいと、泥を漆喰代わりに塗りかため適当な大きさに巣穴をリホームするという器用なことをします。

森に響くゴジュウカラの囀りを聞き春の近い事を感じましょう。



エゾリス

日差しがポカポカと暖くなると、樹木の幹や枝先をすばしこく動き回るエゾリスを見掛けることがあります。ご存じのようにシマリスとは違い冬でも活動しています。

雪上にも足跡が点々ついています。雪上での動きはピョンピョン跳ねるような動きをします。前足を揃えて着地し、後足の前方に着くため感嘆符を2つ並べたような足痕になります。このような動きを跳躍歩行といいます。

エゾリスは北海道にだけ生息していてキタリスの亜種です。俗に「木ネズミ」と呼ばれますが、種名は *Sciurus vulgaris* といい Sciurus はリス、vulgaris は平凡との意味です。

交尾の時期は2月からはじまり、妊娠期間は38~39日で1~7頭(3~4頭が多い)が生まれます。巣は雌雄ともに造り、樹洞内の巣と枝上に小枝などで造る掛け巣の2種類がありますが、年中巣を拠点に活動しますが、特定の巣には固執しません。

イタヤカエデの幹に浸みでてくる樹液を舐めるエゾリスの姿を見ることができると春はすぐそこです。



4月の観察会は?

待ちに待った春の到来です。フクジュソウやミズバショウが咲いています。キタコブシや地味なハルニレの花も見られます。葉の出る前の森は見通しがよく、野鳥の姿もはっきり捉えることができます。野幌の森の春を楽しみましょう。

4月15日(木) 4月の森の観察会 10:15~12:00 開拓記念館前集合